



みやざき楠の会ニュース

NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会

令和8年10月号

発行:宮崎県楠の会

宮崎県ひきこもり支援委託事業

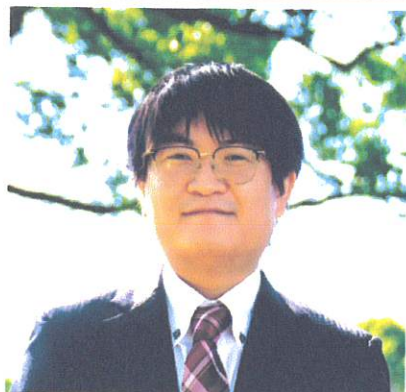
2026年度ひきこもり回復プログラム

10月12日(月・祝) 宮崎市

日程・会場にご注意
ください!!

心の不調かな?と思ったときに大切にしたいこと

講師:久保浩明 先生 (宮崎大学教育学部准教授)



こころの不調や精神疾患は、現代社会で大きな課題であり、これはひきこもっているかどうかにかかわらず誰にでも起こりえます。ただ、実際に不調を抱えても支援や治療になかなかつながらない現状にあります。

今回は、身近な方が気になる不調を示したときの理解や関わり方についてご紹介し、一緒に考える機会になればと考えています。
(久保 浩明)

久保 浩明 氏 プロフィール

(宮崎大学教育学部准教授、ひきこもりサポーター中級)

宮崎大学教育学部教育臨床心理(心理学)講座・准教授、公認心理師、臨床心理士

2011年度福岡県立大学大学院修士課程修了

2021年度九州大学 博士(心理学)

北九州市総合療育センター、精神科病院勤務を経て2013年から九州大学ARO次世代医療センターテクニカルスタッフ、大学院医学研究院精神病態医学分野学術研究員としてひきこもりの臨床研究に従事したほか、同病院精神科神経科の気分障害・ひきこもり外来にてアセスメントや心理療法に従事してきた。

九州大学大学院人間環境学府における研究テーマはひきこもりの家族支援手法の開発。

2021年10月より宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野に助教として着任。

2026年4月より現職。

宮崎県公認心理師・臨床心理士会ひきこもり支援グループ所属、宮崎市ひきこもりネットワーク連絡協議会委員

■2026年 10月12日(月・祝) 13時半~16時

《会場》宮崎市社協(市の図書館横) 2階 視聴覚室

《参加費》会員無料(一般500円 ※会の活動費にあてます)

●お問い合わせ先 宮崎県楠の会事務局 090-9603-8780

今後の例会の予定

11月8日(日)10時~12時

▼宮崎市ひきこもり講演会

JA・アズム2階 大研修室

12月13日(日) (予定)

13時半~

■2026年9月20日(日)宮崎例会の報告
 宮崎市木花・青島地区地域包括支援センター管理者・社会福祉士
 かきはら たかひろ
蠣原 隆弘 さんに現場の声を聴く!!



《はじめに》

この日は、台風25号が宮崎をすり抜け関東に行ったため、宮崎は久しぶりの洗濯日和のよい天気になりました。シルバーウィークのはじめとあってか、20名を越す方々が集まってくださいました。

今回のお話は、私たちが想定していた内容をはるかに超えており、複雑で、衝撃的な現実を見せつけられた思いでした。蠣原さんたち宮崎市内の包括支援センターでは、年間7万件を超える数の相談を受けておられると聞き、さらに驚いたところです。

支援しようと動いてくださる方々の心 × 支援を受けようとしている私たちの在り方
 リアルな事例を伺いながら、人として生きていくことの大変さについて、つくづく考え込まずにはいられませんでした。

《地域包括支援センターの目的》

地域包括支援センターは、**地域住民の心身の健康の保持および生活の安定のために必要な援助をおこなうことにより、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として、包括的支援事業を地域において一体的に実施する役割を担う中核的機関**として設置されるものである。

介護保険法(平成9年法律第123号。第115条の39第1項)



**地域包括支援センターで関わった
 ひきこもりのケースや生活困窮のケースについて**

■ケース 1

父親の借金、長男は行方不明、次男の貯金は父親から使いにまれ、三男はひきこもりで、仕事をしたことがない。

包括支援センターとしての
 今後の動き

○世帯分離をして、生活保護を検討中





■ ケース 2

家も土地も、合わせて低額で売ってしまい、住むところがない。仕事も退職がきまっている。

包括支援センターとしての今後の動き

- みやざき安心セーフネット事業(宮崎県)を利用し、当面の間の食料の確保を行うことになった。
仕事、住まいについては「宮崎市自立支援センター「これから」」が対応。→ 相談者と支援側の齟齬が生じているケース。



■ ケース 3

「親なんだから子どもの面倒を見るのは当たり前」

- ・本人…糖尿病で片目失明。脳梗塞。インシュリンの注射、入浴困難
- ・父親…糖尿病、車の事故、体調悪い。

包括支援センターとしての今後の動き

- 退院後訪問看護の必要性を訴えるが、あれこれ理屈が多く、素直に受け入れてくれないケース。「お風呂に入る時は背中位流してくれるよな? 親なんだから」と言っている。両親は下を向いている。医療費がかかるため、生活保護の申請を考えている。

●個人的な感想・まとめ

- ・本人の気持ちと家族の意向が合わないケースが多い。調整力、合意形成のスキルが必要。また関係機関間の連携が非常に大切になる。
- ・もっと早く気づけたんじゃないかというケースも多い。早期から相談してもらえる体制作りが必要。
- ・包括支援センターの業務負担軽減も必要だが重層的支援の視点が今後重要になる。
- ・様々な機関を知り、繋がっておくことが必要。ワンストップで受け止め、早期に繋ぐ。
- ・背景がどのケースもまったく異なるが精神疾患、発達障害、知的な課題、いじめ、家族関係、貧困、失敗体験、虐待、介護、依存症、社会との接点を失った経緯、本人の価値観等が背景に隠れているのでは。
- ・「子供は包括の対象ではありません」で終わらせない。両親の支援の中で家族支援も必要。
- ・就労支援の前に生活の支援、今に至る経緯を考える事が必要。
- ・まずは誰かと繋がる、人と話す、外に出る、誰かと挨拶をする、地域との接点をもつ等、社会との接点を少しずつ取り戻すことが必要なのかなと思います。(蠟原 記)

■ 宮崎市議会議員 嶋田喜代子さんのお話し

今回、「現場の方の声が聞きたい」というこちらの要望に応じて、嶋田さんが以前働いておられた包括支援センターの嶋原さんを紹介してくださいました。

たくさんの方のケースに対応していく中で、複雑に複合化したケースがやはり多いとのこと。ケースワーカーが間に入り、様々な機関とかかわりながら、何らかの解決の道を皆で探っていく。福祉というのは、赤ちゃんから高齢者まで見守ること。民生委員・児童委員・福祉協力員などがチームを作り関わっていく。包括支援センターでは、重層的支援体制整備事業、サービス事業など様々な協力無体制、連携体制を作っています。

今後は、グレーゾーンに対しても体制づくりをしていきたいとお話しされました。

■ 嶋田議員さんが、宮崎市議会の一般質問で「ひきこもり」を質問されました。

嶋田さんは9月7日(月)の宮崎市議会定例会にて、一般質問をされました。

質問の中で嶋田さんは、持ち時間1時間の中の30分余を「ひきこもり」の質問に充ててくださいました。この「ひきこもり」の質問にあたり、今回嶋田さんは、事前に「ひきこもり0(ゼロ)」の街として有名な、秋田県藤里町を視察され、その中心的な役割を果たした菊池まゆみ社会福祉協議会会長にも会って、話を聴いていらっしゃいました。

「藤里町の社会福祉協議会では、平成17年から〈ひきこもり0ゼロ〉の取り組みを始めた。

実態調査を行い、その家庭を職員が訪問して回った。ただし、家に行き行って事情を聴いたり、励ましたり、仕事を促したりはせず、町の情報を届けるといったことだけを地道に伝えて回った。その結果3年後には、ほとんどの人たちが町の関係する仕事にかかわることになった。

その他嶋田さんは、4年前に市長に充てた「ひきこもりに関する要望書」のその後や、ひきこもりの実態調査、相談窓口の充実や居場所のについても質問されました。

宮崎市はよく取り組んでいただいているが、今後とも引き続きお願いしたいと言われ、質問を終わられました。(記録：福沢、編集：植田)



引きこもっている人を、**社会に戻す。**
ではなく...

その人が**安心して生きられる場所や**
人とのつながりを、一緒に**つくっていく。**

① 人として見る

「無職」「引きこもり」「8050」というラベルだけで見ない。



② 状態ではなく背景を見る

「なぜ今の状態になったのか」を考える。



③ 就労だけをゴールにしない

生活・居場所・人とのつながりも支援。



④ 家族全体を見る

本人だけでなく、親・きょうだい・家族関係を見る。



⑤ 支援者がゴールを決めない

本人がどう生きたいのかを一緒に考える。



自分らしく生きたい

⑥ 一人で抱えない

医療・福祉・就労・行政・地域をつなぐ。





★日南支部だより

■令和8年10月の「日南例会」

《日時》10月17日(土) 13:30～15:30

《会場》日南生涯学習センターまなびピア
(日南市木山2丁目)

「親が亡くなった時、ひきこもる子は?!」

江口 綾子さん 統括家計相談員
(グリーンコープ・宮崎市自立相談センター「これから」所属)

◎おしゃべり会 → 10/24 (土)

■申し込み・詳細は田中さんまで…。

電話 090-5949-8843



★都城支部だより

■令和8年10月の「都城例会」

《日時》今月はお休みになります。

《会場》コミュニティセンター

■申し込み・詳細は堀江さん 090-4581-5152

★小林支部だより

■令和8年10月の「小林例会」

《日時》10月18日(日) (第3日曜)

13:30～15:30

《会場》小林市福祉センター別館

◆問い合わせ 小林市社協 大学さん
電話 0984-23-3466

宮崎県ひきこもり地域支援センター

(宮崎県総合保健センター 4階精神保健福祉センター内)

〒880-0032 宮崎市霧島1丁目1-2

■電話相談

0985-27-8133

0985-44-2411

※受付時間 8:30～17:00

■来所相談 ■訪問支援

宮崎市ひきこもり相談窓口「ひだまり」

TEL: 0985-27-3118 (8:45～16:30) 月～金

■来所相談 ■居場所解説

住所: 宮崎市橋通東1丁目
5-8 宮崎マンゴーホテル
206号

メール:
hidamari@miyazaki-
mhsw.jp



宮崎県楠の会【若者の居場所】のお知らせ

宮崎県楠の会では若者のための居場所

『つなぐ』を開設しています。

気軽においでください。

◆対 象 ひきこもり、ニート、発達障がい、
精神障がい等生きづらさを感じてい
る当事者、経験者のみなさん。

◆日 時 10月17(土) pm2時～5時

◆会 場 南宮崎駅前アーケード内
エデュコラボ
(宮崎市大淀4丁目5-25)

◆担当者 下り藤さん
電話 090-5385-7651



〒880-0944

宮崎市江南4丁目9-9 植田方

電話 090-9603-8780(植田)

ひきこもりの子を持つ親の会

KHJ全国家族会「みやざき楠の会」

ニュース会員約110名

援助会員約80名

ホームページは
宮崎県「楠の会」で

検索

クリック

相談、家庭訪問

◆相談電話《無料》

面談の方はあらかじめ植田までご予約ください。

※緊急の場合はいつでもご相談ください。



◆「宮崎県楠の会」若者就労支援 (賃金あり)

- ・イオン アイカルチャーの清掃
- ・郵送作業
- ・宮崎市の公園清掃

担当 佐川さん

【ひきこもりの相談を受けたい方 受付中!】

宮崎臨床心理士会の先生方が、楠の会の会員に向けて、相談会を無料で開催してくださっています。家族の事情、ご自身の生きづらさなど聴いていただくことで、心が軽くなります。ご希望の方は、植田までご連絡ください。

090-9603-8780



2026年10月の計画

日	月	火	水	木	金	土
				1 公園清掃	2	3
4	5 公園清掃	6	7	8 公園清掃	9	10
11	12 宮崎例会 公園清掃	13	14	15 公園清掃	16	17 日南例会 若者居場所
18 小林例会 イオン清掃	19 公園清掃	20	21	22 公園清掃	23	24 日南 おしゃべり 会
25	26 公園清掃	27 郵送作業	28	29	30	31

★お願い★

毎月ニュースを多くの方々にお送りしていますが、ホームページでも見ることが出来ます。

ペーパーのニュースは不要という方は、植田までお申し出ください。《植田携帯》

090-9603-8780

郵送作業

10/ 27
(火)10時~11時半
市民プラザ3階

※簡単な作業です。お手伝い頂ける方を探しています。ご協力宜しくお願いします。